

#8 SLA Research and Foreign Language Teaching

- ・ 「意味交渉」をもたらす学習とはどのようなものか
意味交渉とはなんだろうか。（「情報」についての意味交渉, 「世界観」についての意味交渉）

- 1) 現状で学習者はどのような「言語についての情報」を持っているのか
2) その上で「意味のある交渉」をつくるのか？
・ 「葛藤教材」（「どうしてそうなるんだろう？」など）は重要？
3) その過程の中でどのように「さらなる情報」に触れさせるのか。

- ・ 「母語教育」と「第二言語／外国語教育」の接点
- ・ 「意味」と「形式」の関係性

形式：「統語論・構造アプローチ」のようなもの→「情報と理論」

意味：「意味論・解釈アプローチ」のようなもの→「活用, 思考, 能力」

「情報と理論の受容」→「活用として」→「実際の使用」

「実際の使用」→「省察として」→「情報と理論の獲得」

- ・ 研究は実践にどのように還元されるのか？ 実践に意味をなす研究とは何か？
- ・ 「教科教育」における実践と研究の乖離問題と「SLA」における実践と研究の乖離問題は同じ質なのか？